

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2011

日本語科学

Japanese Linguistics

4

1998年10月

October, 1998

国立国語研究所

The National Language Research Institute

Tokyo, Japan

日本語科学 4

Japanese Linguistics 4

国立国語研究所

The National Language Research Institute

1998年10月

October, 1998

脚本の醍醐味

寺島 アキ子

研究論文 Articles

日本語動詞の活用体系

The inflection system of Japanese verbs

ハイコ・ナロク Heiko NARROG

7

現代日本語の不完結相—シツツアルの意味記述—

Imperfective aspect in present-day Japanese: a description of the meaning of the *shitsutsu-aru* form

副島 健作 SOEJIMA Kensaku

31

標準語法の性格

On the grammatical characteristics of Standard Japanese

田中 章夫 TANAKA Akio

53

年少者日本語教育に関する教師の言語教育観

Language education beliefs of teachers who teach the Japanese language for children from overseas

岡崎 敏雄 OKAZAKI Toshio

74

水海道方言の対格—有生対格と無生対格の統語論—

Accusatives in the Mitsukaido dialect: the syntax of animate and inanimate accusatives

佐々木 冠 SASAKI Kan

99

研究ノート Note

富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述

On the meaning of the sentence final particle *ja* in the Tonami dialect,
Toyama prefecture

井上 優 INOUE Masaru

122

世界の言語研究所(4) 中国社会科学院 語言研究所 (中国)

古川 裕

135

国立国語研究所創立50周年記念事業

第6回国立国語研究所国際シンポジウム

新プロ「日本語」国際シンポジウム ご案内

既刊内容 (第1号～第3号)

投稿規程・執筆要領

編集委員会からのお願い

編集後記

査読者一覧 (第1号～第4号)

国立国語研究所創立50周年記念事業
第6回国立国語研究所国際シンポジウム
新プロ「日本語」国際シンポジウム
ご案内

国立国語研究所は、1948年12月20日の設立以来、今年で50周年を迎えます。これを記念して、創立記念日に合わせ、ふたつの大きな公開事業を実施します。

お問い合わせ先：〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所
創立記念事業事務局
FAX.03-3906-3530
E-mail kinen@kokken.go.jp
Home Page <http://www.kokken.go.jp>

《国立国語研究所創立50周年記念事業》

研究発表と「創立50周年記念誌」などの刊行を計画しています。研究発表は、すべての研究員が口頭発表・ポスター発表・研究室公開のいずれかの形で参加し、国立国語研究所の現在の研究内容を紹介します。さらに、シンポジウムにおいては、日本語研究と国立国語研究所の将来について、一般の人々を含めて、討論を行います。

期間：1998年12月14日(月)～15日(火)

会場：〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所

交通案内：都営地下鉄三田線「板橋本町」駅から徒歩10分

JR埼京線「十条」駅から徒歩20分

JR「赤羽」駅西口バス停5番乗場から国際興業バス

「西が丘競技場／赤羽車庫」行、終点「赤羽車庫」下車徒歩1分

※会場の定員の関係でご入場いただけない場合がございます。

※お車でのご来場はご遠慮ください。

参加：無料（一般公開）

1998年12月14日（月）

10:00～12:00 口頭発表「国立国語研究所の方言研究」3件（1号館5階講堂）

13:00～14:30 ポスター発表17件（1号館2階各研修室）

14:30～17:30 口頭発表「国語辞典編集のための用例データベース」3件（1号館5階講堂）

1998年12月15日（火）

11:00～14:00 研究室公開13件（各研究室）

展示（写真・国語研究所刊行物・研究用機器他）

14:30～17:30 シンポジウム「日本語研究の新領域と国立国語研究所」（1号館5階講堂）

司会：杉戸 清樹（国立国語研究所）

パネリスト：片桐 恭弘（ATR）

橋元 良明（東京大学）

才田 いずみ（東北大学）

近藤 泰弘（青山学院大学）

総括：中西 進（大阪女子大学）

17:45～18:15 記念式典（1号館5階講堂）

18:30～20:00 記念パーティ（1号館5階ロビー・講堂）

《第6回国立国語研究所国際シンポジウム・新プロ「日本語」国際シンポジウム》
「国際社会と日本語 The Japanese Language in the International Community」

国立国語研究所では、1993年以降毎年1回、日本語および日本語教育に関するテーマのもとに、海外からの招聘研究者を含めた内外の研究者による国際シンポジウムを開催し、日本語の諸問題について議論しています。

また、1994年から1998年度にかけて文部省科学研究費補助金創成的基礎研究費の助成を受けて行っている「国際社会における日本語についての総合的研究」（略称：新プロ「日本語」／研究代表者：水谷修）は、今年度が最終年度であり、研究成果の総合的発表のための国際シンポジウムを計画しています。

1998年度は、これらふたつを合流させ、共同開催による国際シンポジウムを行うこととしました。

本シンポジウムは、新プロ「日本語」の研究成果について発表と討論を行い、さらに、これらをふまえて、日本語および日本語研究の将来や国立国語研究所の未来像などについて考えるものです。

具体的には、日本語使用状況や日本語イメージなどに関する調査「日本語観国際センサス」（日本および海外27か国における、各国約1000人を対象とした面接調査）を中心に、日本人と外国人との言語行動の相違点を明らかにするためのビデオ刺激提示調査、放送通訳に関する調査などで得られた各種実証的調査研究の成果をめぐって論議します。

期間：1998年12月16日（水）～17日（木）

会場：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国際連合大学国際会議場

交通案内：営団地下鉄「表参道」駅より徒歩8分

「渋谷」駅より徒歩15分

※会場の定員の関係でご入場いただけない場合がございます。

※お車でのご来場はご遠慮ください。

参加：無料（一般公開）

1998年12月16日（水）

9:30～ 受付

10:00～10:20 挨拶

10:20～11:00 総合講演「国際社会における日本語」

水谷 修（名古屋外国語大学）

11:00～11:30 研究発表「日本語のいま」

江川 清（国立国語研究所）

11:30～12:00 研究発表「世界の言語状況と日本語の市場価値」

井上 史雄（東京外国語大学）

12:00～12:10 コメント

庄司 博史（国立民族学博物館）

13:10～13:40 研究発表「どんな日本語が世界に知られているか」

石野 博史（城西国際大学）

13:40～14:10 研究発表「日本・日本語の印象形成とその変化」

姜 錫祐（カトリック大分大学）

14:10～14:20 コメント

平高 史也（慶應義塾大学）

14:20～14:50 研究発表「ポストモダンの価値観と言語意識

—母語・英語・日本語をめぐって—

真鍋 一史（関西学院大学）

14:50～15:20 研究発表「イメージの中の日本・日本語」

鈴木 達三（帝京平成大学）

- 15:20～15:30 コメント
吉野 諒三 (統計数理研究所)
- 15:30～16:00 総合発表「調査とデータの科学」
林 知己夫 (統計数理研究所名誉教授)
- 16:20～17:00 総合コメント
ウルリッヒ・アモン (デュースブルク大学)
徳川 宗賢 (学習院大学)
- 17:00～17:30 質疑応答・フロア討論

1998年12月17日 (木)

- 9:30～ 受付
- 10:00～10:40 研究発表・質疑応答「言語行動における文化摩擦」
杉戸清樹 (国立国語研究所)
- 10:40～11:20 研究発表・質疑応答「日本語らしい抑揚・リズム習得用ソフト」
西沼行博 (フランス国立科学センター音声言語研究所)
ブノア・ラグリュ (フランス国立科学センター音声言語研究所)
- 11:20～12:00 研究発表・質疑応答「放送通訳の日本語と視聴者の反応
一話す速度の影響を中心に」
木佐敬久 (NHK放送文化研究所)
- 13:00～13:40 デモンストレーション・質疑応答「言語行動における文化摩擦」
杉戸清樹 (国立国語研究所)
デモンストレーション・質疑応答「日本語らしい抑揚・リズム習得用ソフト」
西沼行博 (フランス国立科学センター音声言語研究所)
ブノア・ラグリュ (フランス国立科学センター音声言語研究所)
デモンストレーション・質疑応答「放送通訳の聞きやすい速度とは？」
木佐敬久 (NHK放送文化研究所)
- 14:00～17:20 国際シンポジウム「国際社会における日本語」
司会:米田正人 (国立国語研究所)
パネリスト:鈴木孝夫 (慶應義塾大学名誉教授)
宮島達夫 (京都橘女子大学)
シュテファン・K・カイザー (筑波大学)
フロリアン・クルマス (中央大学)
佐藤和之 (弘前大学)

※なお、タイトル等は変更になる場合がございます。

既刊内容（第1号～第3号）

【第1号】（1997年4月）

- 創刊のことば 水谷 修
字体に生ずる偶然の一致—「JIS X 0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」— 笹原 宏之
連用形の時制指定について 三原 健一
過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合— 井上 優・生越 直樹
Phonological characteristics of Japanese-derived borrowings in the Trukese of
Micronesia Shinji SANADA
オーストラリア・ビクトリア州の通訳サービスと日本語 平野 桂介
『東京語アクセント資料』と辞書アクセント—尾高型アクセントを事例とした資料評価— 相澤 正夫
雑誌九十種表記表の統計 宮島 達夫
助動詞「ない」の連用中止法について 金沢 裕之
「レキシコンにおける名詞」プロジェクトについて ヨハナ・マティセン
世界の言語研究所(1) 国立国語研究院（韓国） 生越 直樹

【第2号】（1997年10月）

- 言語の「科学」に思うこと 鈴木 孝夫
安居島方言アクセントについて 清水 誠治
Survey of standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three
surveys conducted at 20-year intervals Masato YONEDA
Market value of languages in Japan Fumio INOUE
温度を表す形容詞の意味体系—《物》と《場所》の対立— 久島 茂
買物における挨拶行動の地域差と世代差 篠崎 晃一・小林 隆
雑誌三種の表紙における文字使用の変化 中野 洋・中川 美和
世界の言語研究所(2) CSLI（アメリカ合衆国） 加藤 安彦
第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告

【第3号】（1998年4月）

- 「…的」と「ポストモダン」など 大岡 信
程度副詞と主体変化動詞との共起 佐野 由紀子
京阪方言における親愛表現構造の枠組み 岸江 信介
連体修飾節のテンスについて 岩崎 卓
「前提・焦点」構造からみた「は」と「が」の機能 天野 みどり
例示の副助詞「でも」と文末制約 森山 卓郎
翼を持った日本語 1987～1994年度出版を中心に見る渡米語 エツコ・オバタ・ライマン
言語の対照研究と言語教育 佐々木 倫子
世界の言語研究所(3) インド国立科学ドキュメンテーションセンター INSDOC（インド）
チャウラ・K・アショク
第5回国立国語研究所国際シンポジウム（第4専門部会）報告

『日本語科学』投稿規程・執筆要領

(1998年10月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回(4月, 10月)発行する。(投稿の受付は随時)

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類, 分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。投稿原稿の種類と分量(題目, 氏名, キーワード, 要旨, 概要を含む)は以下のとおり。

研究論文: オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調査報告: 調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート: 問題提起, 事例報告, 中間報告などの小論文。(10ページ程度)

この他, 所内外の研究者に**展望論文**(研究動向, 現時点での課題, 将来の展望などについて論じた論文, 20ページ程度)の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし, 例文等において中国漢字(簡体字・繁体字), ハングル, キリル文字, ギリシャ文字を用いることは可(それ以外の文字はローマ字化)。
- 2) 原稿は**A4判横書き, 43字×36行**で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き, 30字×21行×2段。)英文の場合は半角86字×36行を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には, **キーワード**(5つ以内), **要旨**(問題と結論の要約, 10行程度), **概要**(議論全体の概要, 1ページ以内)をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合, 要旨・キーワードは日本語, 概要は英語を用いる(概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合, 要旨・キーワードは英語, 概要は日本語を用いる(概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。

著者名(発表年)「論文タイトル」『書名/雑誌名』巻号(雑誌の場合) ページ 発行者

6. 査読

研究論文, 調査報告, 研究ノートは, 編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査し, 採録の可否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず, 査読者の氏名も著者に公開

しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示，著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文，調査報告，研究ノートの別）」を明記の上，原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

8. 採録決定後の修正

採録決定後，体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き，採録決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

掲載された論文等の著作権（著作権法第27条，28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

補足1：文献一覧書式

- 宮島 達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
井上 優・生越 直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因－日本語と朝鮮語の場合－」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会
BOLINGER, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz (ed.) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.
HUDSON, Richard (1975) The meaning of questions. *Language* 51. 1-31.

編集委員会からのお願い

投稿は随時受け付けますが、一応の目安として、4月刊行の号については前年の12月末日、10月刊行の号についてはその年の6月末日までにご投稿いただければ幸いです。

12月末日／6月末日以降に投稿された論文でも、審査の進み具合によっては、4月／10月刊行の号にただちに掲載されることもありますので、投稿の際は原稿の内容や体裁について十分に吟味してください。

全体の分量の関係で審査を通過した論文のすべてを掲載できない場合は、受理日が早い論文から先に掲載し、掲載できなかった分は次の号に掲載します。

原稿執筆の際は『日本語科学』投稿規定・執筆要領をよくお読みください。（書式の詳細については『日本語科学』所収の論文を参照してください。）また、原稿はできるだけできあがりのイメージに近いものをお送りください。

以下の点には特に留意してください。

- 1) 要旨とキーワードを本文の前につけてください。
- 2) 参考文献の後に、著者の氏名（ふりがな）、所属、連絡先（住所、電子メールのアドレスなど）をつけてください。
- 3) 論文の最後の1ページは概要（タイトル、著者氏名、キーワードを含む。和文論文の場合は英語、英文論文の場合は日本語）にあててください。概要は、論文の内容が把握できるよう、要旨よりもくわしい内容にしてください。
- 4) 論文の分量は、タイトル、氏名・所属、要旨、キーワード、本文、概要の合計が規定の分量を大幅に超過することがないようにしてください。
- 5) 英文のネイティブ・チェックは著者の責任でおこなってください。（編集委員会ではネイティブ・チェックは一切おこないません。）また、投稿の際にはネイティブ・チェック済みかどうかを明記してください。
- 6) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に編集委員会までお知らせください。

編集後記

『日本語科学』の初代編集委員会が発足して丸2年がたった。本号をもって委員は新しいメンバーに交代する。論文の審査にご協力くださった多くの方々と、本誌の出版にご尽力いただいている国書刊行会、そして、論文を投稿してくださった方々に、心よりお礼申し上げます。

この2年間は、我々自身の研究者としての役割を改めて考えるいい機会でもあった。特に、学術雑誌がさまざまな意味で研究者間のコミュニケーションの場となりうること、そして、編集委員会のもっとも重要な使命がよりよい交流の場の提供にあることを実感できたのは貴重な経験であった。

国立国語研究所はこの12月で創立50周年を迎える。研究所も『日本語科学』も、新たな一步を踏み出す節目の時である。今後ともみなさまのご支援をお願いする次第である。

査読者一覧（第1号～第4号）

（五十音順、敬称略）

相澤 正夫、庵 功雄、石井 恵理子、石野 博史、井上 史雄、井上 文子、井上 優、
今仁 生美、任 榮哲、上野 善道、江川 清、大島 資生、大西 拓一郎、岡本 能里子、
沖 裕子、生越 直樹、尾崎 喜光、小野 正弘、鎌田 修、川崎 晶子、木川 行央、菊地 康人、
金水 敏、工藤 真由美、久野 マリ子、熊谷 智子、フロリアン・クルマス、笹原 宏之、
佐竹 秀雄、定延 利之、佐藤 栄作、澤木 幹栄、白川 博之、杉戸 清樹、杉本 武、
鈴木 敏昭、竹沢 幸一、田野村 忠温、塚本 秀樹、坪本 篤朗、當山 日出夫、中島 和子、
永瀬 治郎、中島 孝幸、西村 義樹、丹羽 哲也、野田 尚史、蓮沼 昭子、長谷川 信子、
服部 匡、馬瀬 良雄、町田 健、松岡 榮志、松田 陽子、松村 一登、ヘレン・マリオット、
真鍋 一史、ジョン・マーハ、三田 千代子、三井 はるみ、三原 健一、村上 征勝、
村木 新次郎、屋名池 誠、柳澤 好昭、山崎 誠、山下 暁美、山田 進、横山 詔一

編集委員

江川 清 (委員長, 国立国語研究所)

井上 文子 (国立国語研究所)

井上 優 (国立国語研究所)

杉山 明子 (東京女子大学)

鈴木 美都代 (国立国語研究所)

宮島 達夫 (京都橘女子大学)

『日本語科学』 4

平成10年10月

国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL.03-3900-3111(代表)

[本書の市販品発行所]

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村2-10-5
TEL.03-5970-7421